

第5回「秋の種まき会」 悪天候をはねのけ 無事 開催!

(神野 英樹)



開催前日(9月21日)、小雨が降りしきる中、信田沢搾油所から種まき会場の「町田圃場」まで、道案内用の黄色い旗を設置する作業を行った。圃場まで辿り着くと、やはり部分的に水たまりが発生しており、「明朝まで雨は降り続く」という天気予報も考慮すれば、圃場に入っての「種まき体験」は断念せざるを得ない状況であった。

翌日(9月22日/種まき会当日)は、幸いにも雨が小康状態となり、定刻10時、門馬南相馬市長のご挨拶をキックオフとして、予定通りセレモニーはスタート。金子恵美衆議院議員・杉内代表・藤井ネットワーク代表のご挨拶のあと、全員で圃場の状態をチェックした。 やはり「種まき体験」は無理だな…と諦めかけていたその時、重苦しい雰囲気が一変した。

日本各地から駆けつけた、やる気満々の参加者の「やりたい!」という熱意に押され、再度圃場の奥(南側)まで念入りに調査した結果、遂に「奥の方半分なら大丈夫!」との英断が下された。時折、若者達の悲鳴や歓声が沸き起こる中、無事「種まき体験」は実現した。

参加者は皆、笑顔で「交流&昼食会」の会場(太田地区生涯学習センター)に移動。北芝電機・相馬農業高校の発表のあと、地元の奥様チームが腕によりをかけて調理した「油菜ちゃん料理」を堪能しながら、7月22日に全国放映されたNHKの特番「復興サポート」の録画を視聴したり、各地から駆けつけた参加者の感想発表などに聞き入っていた。

会場満席の参加者は、来春の「菜の花 花見会」での再会を誓い合った。

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STブラザ鶴舞5階B

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀 行 名: 三菱 UFJ 銀行 高畑支店(店番号 297)

□ 座 番 号: 普通 1682863

□ 座 名 義:特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵 使 振 替:00880-7-108610

TEL/ Fax: 052-228-6813 (月·水·金 10:00 ~ 17:00)

 $\pi - \triangle \land - \emptyset$: http://www.chernobyl-chubu-jp.org

【南相馬便り】 (神野 英樹)

★ 信田沢搾油所 本格稼働!

8月1日、相馬農業高校の卒業生で、南相馬に U ターンしてきた若者 A 君が、農地再生協議会に入社。「えこえね南相馬研究機構」からは、定年を迎え悠々自適となった T さんを派遣していただき、遂に、信田沢搾油所を本格稼働できる体制が整った。まだまだ、スムーズな流れを作るための試行錯誤は続くが、念願の「純南相馬産」体制も実現しつつある。

今年度採れたてのナタネ (原種「キラリボシ」限定) を、低温圧搾方式で搾った「一番搾り」の新製品



【YUNACHAN(なたねオイル 油菜ちゃん)】の初回生産も始まっている。(乞うご期待!)

★「油菜ドレ(ごま味)」の商品化に向けて!

相馬農業高校の生徒達がレシピを開発した「油菜ドレ(ごま味)」が、現行品「油菜ドレ(しょうゆ味)」の姉妹商品として、正式に発売されることが決まり、「秋の種まき会」に参加した皆さんにも、出来たての新製品をお土産として持ち帰っていただいた。今回の「油菜ドレ(ごま味)」は、増粘剤(キサンタンガムなど)を一切使用せず、こだわりの「液状分離ドレッシング」とした。よく振って混ぜてご賞味いただきたい(味は相馬農業高校の生徒さんたちのお墨付き!)。

ところで「油菜ちゃん」は、「純国産ナタネ(=遺伝子組み換えでない)」を使用していることが、重要なセールスポイントの一つである。世界の潮流は、【「遺伝子組み換え作物+農毒ラウンドアップ」のモンサント社が、ヨーロッパに続き、アメリカの訴訟でも「敗訴」】…したことでもわかるように、「non GMO」(=遺伝子組み換えはダメ)である。

日本政府だけが、流れに逆らって「遺伝子組換え作物 推進政策」を続けているが、「non GMO」が世界の常識となる日は近い! その時、日本全国に拡がる「菜の花ネットワークプロジェクト」の商品は、引っ張りだことなるに違いない。

★「クリスマスカードの配布スケジュール」固まる!

今年も、ウクライナ⇔日本 双方向の「クリスマスカードキャンペーン」が始まった。当「南相馬(とどけ鳥)」は、贈られてくるカードを、幼稚園・保育園(全 7 ヶ所)にスムーズに届けられるよう、早々に日程調整を進めた。既に、12 月 11 日~20 日にかけて、各園でクリスマス会を開催していただくことが決まっている。皆様から贈られてくるカードの数だけ、子ども達の笑顔があふれる。今年もたくさんのカードが届きますように!

★「帰還率」から「居住率」へ

一昨年(2016年)の7月に「避難解除」となった、南相馬市小高区住民の帰還状況は、2018年5月末現在で【<u>帰還率…21.8%</u>】(現在の人口…2,799名/事故前の人口…12,842名)」(2018年7月22日/NHK報道)となっており、今なお厳しい状況が続いている。

一方で、南相馬市(行政)の公表は「【居住率…31.3%】に回復!(居住者数…2,640名/住民登録者数…8,412名)」(2018年6月9日付朝刊各紙)…と、表現に変化が見られる。数字を高く見せようとするためなのか、住民登録を抹消した人々を事故前の人口から削除して(分母から外して)、「居住率」という言葉を使い始めた。「帰還率」から「居住率」へ。…戻らないことを決めた人々は、あたかも存在していなかったかのようである。

第16期(第32次、第33次)測定隊 まだまだ参加者募集中!!

第 16 期 (第 32 次, 第 33 次) の放射線量測定プロジェクトが、今月 (10 月) にあります! 第 32 次は、「10 月 12 日(金)~15(月)」, 第 33 次は、「10 月 19 日(金)~22(月)」のそれぞれ 4 日間です。測定隊募集の案内を 1 ヶ月半前からみなさまにお知らせしています。

おかげさまで、どちらの日程も9名前後の応募をいただきました(9月26日現在)。

ありがとうございます!!

参加者募集の ≠ 切を「9 月 28 日 (金)」にしていましたが.....

『残り3~4名』の定員枠を、ギリギリまで募集いたします!!

募集要項を同封いたしますので、改めて詳細をご覧いただき、参加を検討していただけますと嬉しいです(^人^)。

8 年にわたって継続しているこの放射線量測定プロジェクトの助成金を、今年度からは、㈱ ラッシュジャパンに申請していますが、春の測定プロジェクトに続き、秋も当団体の測定プロ ジェクトを助成対象として選んでいただきました!! 感謝、感謝です。

(株ラッシュジャパンの名古屋ユニモール店では、今年の7月にチャリティパーティーで大変お世話になりました(ポレーシェ166号に、チャリティパーティーの記事を掲載しています♪)。菜の花プロジェクトを通じて、(株ラッシュジャパンと繋がり、放射線量測定プロジェクトも継続していくことができています!! 秋の測定プロジェクトも、うまく成功させて、(株ラッシュジャパンへのお礼に代えさせていただけたらと思っています。

今回から、いろいろな事情を勘案しまして、**すべての参加者に現地集合(「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」集合)**をしていただくことになりました。これまで名古屋から合同で参加していただいていたみなさまには、参加し難い条件で大変申し訳ありません m()m。

第32次,第33次どちらの日程も、「金曜日~月曜日の4日間」とさせてもらっていますが、 **月曜日のご都合が付かない場合は、日曜日の測定までの参加も可能**です!! 日曜日の測定作業は、遅くとも午後3時頃には終了する予定ですので、作業が終わり次第、帰路についていただけます。

また今回の測定プロジェクトから、空間(空中)の放射線量のほかに、土壌の放射線量測定 も正式に実施することになりました。空間線量はだんだんと低下している場所が増えています が、土壌の放射線量は、空間のようには低下しないケースがあるため、今後は、土壌の放射線 量の継続的な記録が重要になってきます。土壌の測定用試料の採取(サンプリング)は少し手 間が掛かりますので、これまでの参加募集人数よりも2名ほど増やします。ぜひ、みなさま!! 参加をご検討ください m(__)m。

測定が初めてでも、測定に慣れている現地ボランティアのみなさまとペアで測定作業をしますので、安心です! 大丈夫です!! (事務局)

参加申し込みの嬉しい連絡をお待ちしています!!! (≧人≦) **残り3~4名**です (≧人≦)

☆よろしくお願いします☆



今年もいよいよクリスマスカード キャンペーンの季節がやってきました。

「秋なのにクリスマスカード? 早過ぎない?」なんて言わないでくださいね。冬休み前の 12 月中にウクライナでカードを受け取ってもらえるよう、11 月中に発送することになりました。

ウクライナへのクリスマスカードは、毎年ジトーミル・ナロジチ・オブルチ地区の小学校や、小児病院に入院中の子ども達に贈っています。ウクライナの子ども達は、英語が読める子どもも少なくないのですが、なんといっても日本語が大好き! 漢字・平仮名で書かれたカードを、本当にとっても喜んでくれるんですよ! 30年以上前の原発事故の影響が、いまだに色濃く残る被災地の子ども達や家族は、今でも日本に支援者がたくさんいてくれることを心の支えにしています。30年続いているカードキャンペーンの歴史を物語るように、長い間カードを宝物として大切に持ってくれている人々が、たくさんいます。

そして、南相馬の幼稚園・保育園・こども園の子ども達へも、クリスマスカードを贈っています。 12 月中旬、スタッフがサンタクロースに扮し、南相馬の子ども達に会いに行きます。帰還者が少しずつ増えている南相馬では、贈る子ども達も年々増えています。サンタクロースは大忙しです。

今年も、一人でも多くの子ども達に心のこもったクリスマスカードを届けるため、キャンペーンを頑張ります。

出張カードつくりのご要望がありましたら、ぜひ事務局にご連絡ください。お待ちしています。 (市原佳代)



【ご案内】

11月10日(土)「ワールドコラボフェスティバル(名古屋市栄・オアシス21)」で、クリスマスカードつくりのブースを出展します。色とりどりのカードをたくさんご用意しています。

ー緒にカードつくりを 楽しみませんか。

ミルクキャンペーンのお知らせ

★ ☆ ★ ☆ ☆★☆ 今年も"ミルクキャンペーン"を始めます♪ ☆★☆ ☆ ★ ☆ ★



放射能に汚染されていない粉ミルクを、ウクライナの子ども たちに届けるキャンペーンです! みなさまから集まった寄 付金は、ウクライナでミルクを購入する資金になります。

チェルノブイリ原発事故から 30 年以上が経った今でも、ナロジチ地区では安全な食品を手に入れるのが難しく、内部被ばくの状況が改善されていないのが現状のようです。そんな生活環境の中で、放射能に汚染された牛乳を飲んでいる子ども達も居ます。

赤ちゃんのためだけではなく、子ども達の栄養改善のためにも、このミルクキャンペーンは役に立っています!

1 人でも多くの子どもたちが支援を受けられるように、みなさまのご協力をぜひお願いいたします。m(__)m

放射能に汚染されていない『ミルク』を必要としている 『赤ちゃん』がいます。 『1,000 円』で『1 人の命』が助かります。

どうかご支援をお願いいたします。

チラシも同封させてもらいましたので、見ていただけると嬉しいです♪

「秋の種まき会に参加して」

イオンマーケット労使(原田翼)

これまで当労使は、南相馬市小高区小高駅前の芝桜の植栽の募金活動や、植込みの手入れのボランティア活動を通じて、小高との関わりを深めてきました。活動で「小高を応援する会 3B+1」の皆さまと交流する中、「菜の花プロジェクト」の存在についても知りました。

2018 年 6 月に労使ツアーで南相馬を訪れた際には、小高での活動と併せて、「南相馬農地再生協議会」の杉内様、神野様から取り組みの詳細を伺う機会を得ました。放射能測定センター「とどけ鳥」と信田沢搾油所も見学させていただき、「油菜ちゃん」が出来るまでのバックグランドをより理解することが出来ました。

この労使ツアーに参加したメンバーからは、「油菜ちゃん」シリーズを知る機会を増やしたいとの意見が出て、まずは労働組合の大会の中で、復興に向けた商品の物販をしようという

ことになりました。できることを一つずつ取り組んでいきたいと考えています。

そのような中、「秋の種まき会」のご案内をいただき、労 使事務局2名で、はじめて参加させていただきました。

種まきを体験できたことの喜びもさることながら、「菜の花」をもとに集まる、人の広がりの大きさに感嘆しました。少しずつでも、関わりを持たせていただくことができれば幸いです。今度は是非、菜の花の咲く頃に、訪れたいと考えています。



SDGs(持続可能な開発目標)と「菜の花プロジェクト」&「油菜の里」構想

(戸村 京子)

SDGs は、国連・持続可能な開発サミットで採択された 2016 年から 2030 年までの国際目標 [<u>S</u>ustainable <u>D</u>evelopment <u>G</u>oal<u>s</u>]。①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を… ①エネルギーをみんなにそしてクリーンに…というように、17 のゴール(目標)があります。すべての国・企業・NGO・市民が連携して、社会・経済・環境を切り離さず統合して取り組む課題です。そしてキーワードは「誰一人取り残さない」。

南相馬市で行っている「菜の花プロジェクト」を、SDGs の視点で見ると、以下のようなチェル救的・主観的な解釈ができるのではないでしょうか? ゴール⑦を一番目に、関係の深いゴール順に挙げると・・・



エネルギーをみんなにそしてクリーンに・・・ナタネは再生可能な自然エネルギーとなり、放射能でクリーンではない原発のエネルギーはダメ!ということ。



つくる責任つかう責任・・・放射性廃棄物の処理 もできない原発のエネルギーを使う生活はゴメ ンだ!ということ。



気候変動に具体的な対策を・・・・化石燃料をどんどん使い、酷暑や豪雨などの災害を招き、地球がもう持たない!国・企業・自分はどんな手を打つか?ということ。



陸の豊かさも守ろう・・・遺伝子組み換えの外国産ナタネなどを輸入せずに、菜の花の黄色・レンゲの花のピンク・麦の緑のじゅうたんに彩られた、かつての美しい風景を取り戻そう!ということ。



働きがいも経済成長も・・・放射能汚染や風評被害によるダメージを受けた福島の農業を、エネルギー作物のナタネ栽培によって再生させ、農業で生活できるように応援しよう!ということ。



<u>産業と技術革新の基盤をつくろう</u>…「菜の花プロジェクト」で生産され、相馬農高生とのコラボで生まれた良質な国産ナタネ油・「油菜ちゃん」を拡販し、油粕などでバイオガスを製造し、熱源として活かせるような新しい産業をこれから生み出していこう!ということ。

そう遠くない将来に、先に述べた SDGs のゴールと重なる、複合的な「油菜の里」を実現したいと、里の絵が描かれ、構想が練られ、熱く夢が語られています。

左表のように「菜の花プロジェクト」を SDGs に当てはめて見ると、より豊かな福島・日本の大地が拓けてきます。そして本来の農業を始め、「菜の花プロジェクト」を中心にした新しい産業の創出や地域づくり、雇用の場、人のつながりなどが見えてきます。

そこから、南相馬という。 開会やチェは、「油菜の里」構想の では、「油菜の里」構想の ではていますがでは、「油菜の里」構想の ではていますがではでいますがではでいますがではでいますがでですがでですがでですができますがでですができますがです。 ではがガガルギであるでは、製造のでは、 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構想。 では、「油菜の里」構造。 では、「油菜の里」構造。 では、「油菜の里」は、「油菜の里」は、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜の里」は、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜の里」は、「油菜のでは、「油菜の味」は、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜のでは、「油菜の味」は、「油味」は、「油



福島原発事故から7年半が過ぎた。南相馬で取り組んできた「菜の花プロジェクト」も次第に地域に定着し、汚染地域における新たな農業の形として、地域の人々に受け入れていただけるようになった。ナタネ油が放射能で汚染しない事で「油菜ちゃん」が生まれ、商品化された。念願の搾油所も福島大学の協力で実現し、菜の花プロジェクトの目標である「バイオガス発電所」に向けて着実に歩んでいる。

「油菜ちゃん」には大きな夢がある。「油菜の里」を創ることだ。

菜の花プロジェクトは何故?

放射能で汚染された土地で農業をする、という一見無謀な取り組みは、チェルノブイリから始まった。世界で初めての原発の爆発事故とソ連崩壊という歴史的な事件が重なって、汚染地域(ウクライナのジトーミル州ナロジチ地区)に取り残された1万人の人々を支援する中で生まれた「菜の花プロジェクト」。

安全と信じていた原発の爆発、それは人々 を別世界に追いやった。彼ら彼女らは自らを 「チェルノブイリ人」と呼んだ。10歳の少女 が画いた絵をもらい、衝撃を受けた。「事故前 の私と事故後の私」。その自画像は左半分が美 しいリボンをつけ、きれいなスカートをはい た私。しかし右半分は全身灰色に塗りつぶさ れた私、だ。「原発さえなければ」と言って自 らの命を絶った福島の農家の方を思い出す。 チェルノブイリでも福島でも、原発事故は心 ある人々の世界観を変えた。菜の花プロジェ クトには、そうした人々に寄り添い共に生き てゆく、という私たちの願いが込められてい る。一度失った命の火を再び燃やし、新たな 世界を切り開いてゆく。それがこれからの生 き方なのだ。政治家や産業界の面々が如何に もがこうと、原発の時代は終わったのだ。

今、行うべきは「原発事故からの復興」ではない、新たな世界を開く事だ。もとを正せば、チェルノブイリ事故を起こしたウクライナで、ナロジチで「原発に頼らないエネルギーの村」を作りたかった。バイオガスで電力を自給し、温室効果ガスを増やさない生活。汚染しない農作物を作り、新たな世界観を普及する為の研修所などを作る、それがナロジチでの夢だった。

「油菜ちゃんの夢」

今、政府はオリンピックを目指して、原発 事故は無かったかのようにふるまい、再稼働 を進めている。しかし彼らがいかにあがいて も、廃炉や汚染水対策は避けられない。使命 の終わった原発の後始末は、彼らの責任だ。 そんな環境の中で生まれた「油菜ちゃん」は もう5歳。彼女には夢がある。生まれ育った 南相馬に「油菜の里」を創ることだ。春にな れば黄色い菜の花に囲まれ、ナタネ油を作る 「搾油所」や、その「加工施設」「売店」「研 修施設」「原発事故博物館」等を作り、その電 力を全て自給できる「バイオガス発電所」を 作る。その燃料は勿論、搾油後の汚染した油 粕だ。バイオガス発電所の廃水に含まれる放 射能は、ゼオライトで吸着し低レベル廃棄物 処分する。発電所の温水は「ビニールハウ ス」の熱源に使い、安全な農作物を作る。こ うして生きるためのエネルギーや資源、食料 を自分で作れるライフサイクル、これが油菜 ちゃんの夢見る「油菜の里」構想だ。勿論、 油菜ちゃんはまだ5歳、周りの人々の助けも 必要だ。でも油菜ちゃんの夢は、この国の未 来に通じる大きな夢だ。世界には今、大きな 波が押し寄せている。SDGs(Sustainable Development Goals) という新しい文明の波 だ。持続可能な社会こそが未来の世界を作 る、と人々は感じ始めているのだ。目先の利 害に惑わされず、新しい未来の社会に向かっ て、新たな事業を起こそうという考えが普及 し始めたのだ。原発はもう過去の産業だと、 心ある世界の人々は分かったのだ。「油菜ちゃ ん」が更に大きく成長するように、応援をお 願いします。 (2018年9月27日 河田)

チェル/フィリから消防士を招くイヴェントを計画しています

南相馬市小高区 小林岳紀

フクシマでの東日本大震災、および福島第一原子力発電所の事故から、7年目が経過しています。ウクライナでは、チェルノブイリ4号炉の爆発事故から32年が経過しており、未だに半径30km圏は『ゾーン』と称して、立入が制限された状況が続いています。

この度、ウクライナのチェルノブイリ原発事故後に消火活動に従事していた消防士の方をお招きして、お話を伺う機会を設けたいと考えております。平成30年2月には、事故当時、チェルノブイリ原発で働いており、お子さんと避難生活をされてきたお母さんに来日していただいて、お話を伺いました。

事故当時の立場の違いや、その後の生活環境に違いがある方々からのお話は、これからの暮らしの中で我々日本人が考えてゆかねばならないヒントがあるのではないかと、期待しています。

一方、我が国の福島第一原発事故では、当初は半径 20km が警戒区域として立入禁止措置がとられたものの、1 年目で帰還準備区域・居住制限区域・帰還困難区域に区分されて、帰還困難区域を除く地域は、立入制限が解除されました。但し、宿泊することは認められず、単に立入禁止が解除されたに過ぎない状況で推移してきました。20km圏の南相馬市小高区と原町区の一部が、2016 年7月に全面的な解除となり現在に至っています。更にその他の被災町村についても、帰還困難区域を除いて順次、解除されております。解除にあたっては、放射線量の基準を年間 5mSV 以下の地域としています。

因みに法令により、3か月で1.3mSV(年間5.2mSV)以上の区域は、放射線管理区域として立入管理の徹底を要するなど、一般の区域と明らかに区分されています。にも拘わらず、一般人の生活の場として居住可能とする当該の基準に、違和感を抱かざるを得ません。

この様に、ウクライナでは事故後 30 余年、30km 圏を立入禁止のままで避難生活を未だに継続している反面、我が国では解除を急ぎ過ぎているのではないかと疑問が残ります。当然、チェルノブイリの原発事故と福島第一原発の事故とは事

故の形態や汚染の規模に大きな差異があり、それに伴う汚染などの影響の広がり方にも差異があるでしょう。一概に比較することはできない面もあるでしょう。

事故の形態における福島第一原発との大きな違いは、チェルノブイリ原発事故では直後に火災が発生して、その消火活動に従事した多くの消防士の存在があります。軽装備で決死の消火活動を余儀なくされ、多くの消防士が被ばくによりお亡くなりになり、後年になって発病して若くして命を全うできなかった方々も多くおります。先般、ウクライナを訪問した際に、「我々消防士は、地球を救った」と語っていたことが印象的です。

事故後7年が過ぎた我が国でも、未だに立入制限を受けて我が家に帰ることが許されない方々が多くおられます。また、将来にわたって、放射能の影響に不安を感じながら暮らしてゆかざるを得ない方々も、多くおられるでしょう。

この様な中で、過酷な環境下で消火活動をし、 事故から30数年間にわたり暮らしてきたチェル ノブイリの方からお話を伺うことは、非常に有意 義なことと思い、是非お招きしたいと計画してい ます。

実は、平成28年12月にウクライナの消防署から、世界中の『消防士のヘルメット』を収集して展示したいとのお話があり、福島県相馬地方消防本部からの『ヘルメット』を、チェルノブイリへお届けしたことがあります。消防士の方が来日された折には、地元の消防士の方々と交流できればと考えています。



<2016年12月 ウクライナ・コロステン消防署にて>

「農業クラブ」について

学校農業クラブは、1948 年(昭和 23 年)に学校農業クラブとして、戦後の新制高等学校の学習活動の中で、農業高校生の自主的・自発的な組織として日本全国で誕生しました。

「科学性」「社会性」「指導性」の育成を目標に、日本全国の農業クラブの全国組織として、日本学校農業クラブ連盟【Future Farmers of Japan(略称:日連 または FFJ)】は結成されました。 FFJ は半世紀以上もの歴史を持ち、農業教育における「生きる力」を育むために大きな成果をあげてきました。

相農農ク活動日誌より「農地再生協議会との関わり」を抜粋

「ゆなドレ!(2017/04/17)」

昨年度、食品科学科が中心となり、油菜ちゃんを使用したドレッシングの開発を行っていましたが、レシピが完成し、それを業者さんに委託して製品が出来上がりました。完成した商品を農地再生協議会さんよりいただきました。太陽のように輝き、青空に映えるとても美しいドレッシングとなりました。地域の定番商品として活躍する日が楽しみです。



「搾油施設開所式(2018/02/10)」



南相馬市信田沢に完成した、菜種油の搾油施設開所式に参加してきました。私たちは震災以降、菜の花栽培や、菜種油を使った商品開発を南相馬農地再生協議会の皆さんと一緒に行ってきました。今までは栃木県に菜種を運び搾油を行っていましたが、今回の搾油所開所で、栽培から菜種油生産まで一貫して行える設備が整い、私たちもうれしく思いました。今後も6次化商品開発などを通じて、南相馬の農業発展に努めていきたいと思います。

「第9回 課題研究発表会(2018/02/23)」

課題研究発表会が本校の体育館で行われました。今回の発表会では 地域の方々に観覧いただくだけでなく、全校生徒が発表を聴きました。 三年生が研究してきた課題研究の内容を各学科代表一題ずつ発表した ほか、地域ブランド油(油菜ちゃん)を使った6次化商品の開発・販 売についての発表、農業クラブの一年間の取り組みも発表しました。

油菜ちゃんを使用したゴマドレッシングを来場者に試食していただき、様々な意見をいただくことができました。今回の発表会に来場いただいた企業の皆様、そしてクラブ員の皆さんに農業クラブをより深く知ってもらえる良い機会になるとともに、発表した生徒にとっても大変良い勉強の機会になりました。



間もなく新発売! 「油菜ちゃんドレッシンク゛ (ごま味)」

「油菜ちゃんドレッシング (ごま味)」の新発売が間近に迫りました! 南相馬産「油菜ちゃん」を使った新製品! ぜひぜひお試しください

ね。詳しくは、農地再生協議会(Tel: 0244-23-5611) 迄、お問い合わせください。

名古屋聖ヨハネ教会 地域いきいきサロン東日本大震災支援活動

メルヘンボックス(ペープサート= paper puppet theater) 2018.9.25 津田裕子

名古屋市瑞穂区の聖ヨハネ教会で営まれているいきいきサロンから、震災の翌年より「文化活動での支援を・・・」と、半年毎に「福島県相馬市新地町」「南相馬市原町区」「宮城県石巻市女川町」「南三陸の仮設住宅」へ、協力を得た民謡三味線・和太鼓・インド楽器奏者等を同行して演奏訪問を続けてきました。

一昨年初めて郡山市を訪れ、セントポール 幼稚園に伺いました。ニュースでは聞き知ってはいましたが、線量の高い日は屋内での活動となることに、子ども達1人1人が積算線量計を持っての登園であることに、土や虫・花を触る前に「触れても良いか・・・」と迷う姿に、そして同行した奏者の演奏を良くもなく悪くもなく静かに聴く姿に、どうしても拭い去れない疑問を覚えました。

名古屋で見かける子ども達の姿と考え合せ た時、何が何故に、この子ども達の本来ある べき姿と持つべき空間、そこから生まれる好 奇心を奪ってしまったのだろうと、胸が痛み ました。一応その時の活動を終え、名古屋に 戻りましたが、どうしてもあの子ども達の為 に、子ども向けの企画をして実行に移したい と思い、知りうる限りの知人友人を通して、 人形劇・ハンドベル・童謡の会等々紹介して いただきました。・・・が、それぞれ機材の多さ、 人数の多さ、加えて報酬面等の問題も持ち上 がり、なかなか良い返事は得られずでした。 そんな折、市内の諸施設で絵本の読み聞かせ 等をしているという女性に出会い、協力をお 願いしたところ即答で了解を得ることができ ました。友人とお二人で、絵本の読み聞かせ とペープサート等、演目を考えて同行してい ただく事にしました。早速、郡山セントポー ル幼稚園にコンタクトをとったところ、9月19 日の敬老祝会で、全園児とその祖父母様を含 めた200名弱の前で演目を披露くださいとの事。 小さな紙のペープサートでは小さ過ぎるので、 絵本の各出版社に著作権使用の許可を取り、 それぞれの絵本題目に合わせて大型ペープサ ートを作成することにしました。製作には、 ヨハネ教会用務員の男性が全面協力してくだ



さり、絵本の中の登場物の尺寸を取り、発泡 スチロールを削り、カラー紙を貼り、取手を 操作し易い様に何度も取り替えて・・・という作 業でした。・・・と今度は、大型ペープサートを 操作する人手が足りなくなり、他の友人に加 わっていただき私も参加して、「メルヘンボ ックス」の誕生となりました。

布作品や絵画等は、メンバー5人で時間の許す限り集まって作り、全ての完成に半年を要し、それから練習を重ねて、やっとなんとか人前で披露できるに至りました。9月19日のセントポール幼稚園敬老祝会では、園児達の笑顔もさることながら、祖父母様方がとても楽しんでおられました。終了後レンタカーで、飯舘村を経由して南相馬市原町区へ。途中、彼方此方に積まれた除染土のシートが異様でした。

9月20日の青葉幼稚園は、チェル救の神野さ んにご紹介いただき、園長先生・職員の方々 そして子ども達が、笑顔で迎えてくださいま した。まだまだ未熟な私達の演目に、素直な 心で溶け込んでくれた様に思います。別れ際 に、子ども達が大合唱と踊りを披露してくれ、 温かい時間となりました。その後、信田沢搾 油所等見学し、浪江町を走行して郡山市へ。 前日の飯舘村同様、否もっと深刻な状況を目 の当たりにし、「この負の遺産をこれ以上増 やしてはいけない!| 「この震災と原発事故 を風化させてはいけない!」と、メンバーー 同改めて思いました。最後になりましたが、 今回ご協力ご助力くださいました全ての方々 に、心より感謝申し上げます。次世代を担う 子ども達の健やかな成長を祈りつつ・・・。

自己紹介 臨時会計の 大森 融です m()m

ポレーシェ 165 号に、チェル救でしばらくの間、お世話になるエピソードを少し書かせていただきました。人との繋がりや、ご縁にとても感謝しています。

僕のことを少し書かせていただきます。

生まれは、愛知県刈谷市で、高校までは刈谷市で生活をしていました。高校卒業後に県外での生活が始まり、26 年間でいろいろな場所に行けました。仕事では、北は北海道、南は長崎県まで行きました。住んだことがある街は、札幌・仙台・茨城・東京・大阪・岡山で、札幌には13年間くらい住んでいました(第2の故郷です!?)。そして、4年くらい前に、愛知県に帰ってきて、今は名古屋に住んでいます。



チェル救にお世話になる前は、地質調査の仕事をしていました。放射線量測定プロジェクトでされているような作業もしていましたので、会計以外に、そちら方面でも少しお役に立てるかもしれません!? それから、こう見えて(?)お絵描きの資格を持っていますので、クリスマスカードキャンペーンでも、もしかしたら少しはお役に立てるかもです!? それでは、兼松さんが復帰される 2020 年 1 月までの期間になると思いますが、どうぞよろしくお願いします!!

あっ!名前の"融"…これで"とおる"と読みます!! 「お名前なんて読むんですか?」って 良く聞かれます($\geq \nabla \leq$) (大森)

杉田和人さん、ウクライナ探訪! (ホステージ基金のフェイスブック情報より)



杉田さんは、元消防士を取材しました。これは P8 で紹介している活動の事前取材です。

手に取っていつでも読むことができるように、冊子を作る予定です。

ホステージ基金の要請で、 大人気の日本のアニメを

子ども達と描き、さらに入院している子ども達のために、小児病院の壁にも子ども達が喜ぶ絵を描きました。





ジトーミル市内のローカル TV 会社のラジオ録音 (UA.Pershiy)にも出演しました。 (中央が杉田さん。右端がドン チェヴァさん。)



事務局便り

兼松さんは第2子誕生が近くなりお盆前からお休み。代わって大森さんが登場。何と間が良いことか。兼松さんとの引継ぎも万全。そろそろクリスマス・カード・キャンペーンも始まる。今年は締め切りが早くなったので、皆さまご注意を! 第16期放射能測定隊は、今回から現地集合になり、参加者が集まるかどうか心配だが、現在9名ずつ、あと一息。お申し込みまだの方はよろしく。資金の方はLUSHの助成金が通って一安心。10月27日(土)は、ブラザー・ミュージアムで、「福島原発事故と私たちの人権」講演会とシンポジウムが行われる。福島の被災者、森松明希子さんらによる、国連人権委員会での訴えを聞き、放射能と人権について考えよう。 (河)

寄付などのお礼と、新しい会員さんお誘いのお願い m(_ _)m

みなさまから頂戴しました 4~7 月の寄付金と会員費のおかげをもちまして、今年度予定していましたウクライナへの「ミルク支援、医療支援、被災者支援のための 150 万円」を無事に送金することができました。ありがとうございます!! 半期は無事に終えられます。後半も引き続きご支援をいただきたく、よろしくお願いいたします。

今号のポレーシェに、チェル救の"新しいパンフレット"を同封させていただきます。お知り合いでまだチェル救のことを知らない皆さまに、"チェル救のことを知ってもらうきっかけ"として、パンフレットを使ってもらえたら嬉しいです! 友人・知人に呼びかけて、賛助会員・正会員も増やしていただけたら嬉しいと思っています! どうぞよろしくお願いします。 (大森)

編集後記

- ☆子育て経験のない私が、諸事情によりただいま1歳9か月の男子と付き合う日々。いちいち駄々をこねる幼児に「協力」という言葉を覚えさせ、着替えやおむつ交換。多少は効果あり。 (佳)
- ☆「美容院に行ってきた」と言うと、「うん、ばぁ~ってなってる。」 ううう、気づいていたよという代わりに「ばぁ~ってなってる」はないでしょ? 「美容院」に行って来たんだよ! (美) ☆8月25日に、ジョン・マケイン上院議員(第二次大戦後に世界中で発生した戦争の元凶; ISIS
- 生みの親)がこの世を去り、内戦状態だったアメリカの上層部において、ついに「開戦の狼煙」が上がった。次は、米連邦最高裁判所の判事に指名されている「ブレット・カバノー裁判官」が、予定通り判事に就任できるかどうかである。彼が就任すれば、最高裁判所の判事の過半数を改革派が占め、旧支配層に対する本格的な「パージ劇」の幕が切って落とされることになる。

米国では今、トランプ大統領を支持する「Qanon (Q-anonymous/匿名Q)」というサイトのアクセス数が、急上昇しているという。日本のメディアはアメリカのマスメディアに追従して、

9月上旬に「陰謀サイトに要注意!」と一斉報道した。「フェイクニュース」を流しているのは どちらなのか? まもなくその答えも明らかになるだろう。 (J)

〒 456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL • FAX (052) 871-9473